「北九州市アセット変革方針（素案）」に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
① 既に掲載済み
② 追加・修正あり
③ 追加・修正なし

No	意見の概要	市の考え方	反映結果
変革方針全体に関すること			
1	アセット・ＤＸの意味がわからない。	ご意見を踏まえ、関係部分に用語の説明や考え方を追加します。	②
2	行政手続きの基準等が厳しく、結果として民間投資を阻害することになるのではないか。		
3	他都市との比較を通じて北九州市の施設保有量の多寡を客観的に把握し、それに基づいた具体的な削減目標をまず設定すべきではないか。	今後、策定する分野別計画の中で、施設の現状を分析したうえで、取組指標の設定や行動計画の作成を行い、施設保有量も考慮しつつ、最適化に向けて取組を進めます。	③
4	政令市比較について、全施設の合計値による単純なランキング比較は不十分であり、一人当たり面積の格差が生じている要因を施設種別ごとの内訳まで精査し、公表すべきである。	分野別計画の策定にあたり、必要に応じて他都市の状況なども参考にします。	③
5	アセット変革によって生み出した財源は、財政赤字の補填ではなく、産業振興・防災・子育て・空き家対策など将来の都市経営に不可欠な分野へ重点投資すべき。	本方針に基づく取組を進めることで、質の高いサービスと安心できる財政基盤を、次世代へ継承することを目指します。	③
変革の推進パターンに関すること			
6	公共施設の老朽化が進む現状において、更新にあたっては自前で新たに建設するのではなく、民間再開発ビルへの入居など、民間活用を検討すべきである。	公共施設の更新では、民間施設の活用等の公民連携も視野に入れて、幅広く検討します。	①
7	市民センターと地域交流センターのように類似する機能を持つ施設を統合し、一つの施設で総合的に対応できる体制を検討してはどうか。	利用者ニーズに合わせた既存施設の集約や、駅前など利便性の高いエリアへの移転、また、これらの手法を組み合わせることなどにより、公共施設の新たな価値創出に向けて検討を進めます。	①
8	高齢化社会を見据え、郊外型開発から「利便性の高い駅周辺への公共・商業・医療機能の回帰」へ転換すべきである。コムシティへの八幡西区役所移転を先進モデルとし、交通結節点への機能集約を推進すべき。		
9	人口が減少する中、７区に均等に都市機能や公共施設を配置・維持するのは限界があるのではないか。産業、住宅、医療・福祉、文化・観光など、地域ごとの強みを生かした機能分担を進め、必要な機能を集約し、より質の高い施設を整備し、公共交通などによってアクセスを確保する方が市民サービスを維持・向上できる可能性がある。		

「北九州市アセット変革方針（素案）」に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
① 既に掲載済み
② 追加・修正あり
③ 追加・修正なし

No	意見の概要	市の考え方	反映結果
分野別計画や個別事業に関すること			
10	道府県庁所在政令市と所在でない政令市は、県立施設の立地という面での不均衡が存在する。今後の検討においては、県立施設や民間の文化施設などは福岡市圏に集中し、北九州市には代替施設が乏しいという現状を踏まえ、市民にもそのことを示してほしい。	分野別計画の策定では、施設ごとの数や、配置状況を踏まえながら、施設のあり方や取組の方向性を検討することとしています。 その中で「利用者目線」に基づく施設整備や、機能の集約等についても検討を進めます。	③
11	各施設分野の取組指標は、利用者満足度のような主観的なものではなく、人口一人当たりの施設数など、他都市と比較可能な客観的データに基づいて設定すべきである。	分野別計画の策定にあたり、必要に応じて他都市の状況なども参考にします。	③
12	利用者数や利用者一人当たりコストが分野別計画の共通指標になっているが、例えば北九州芸術劇場の大ホールでは満席になる興行、前日の仕込み、練習利用など多様な使用形態があり、単に利用者数では比較できない。分野別計画の策定にあたっては、各施設の特性について当該分野の専門的な知見を踏まえ十分な検討と公表を行うべき。	分野別計画の策定にあたり、施設特性などの利用実態を踏まえながら検討を進めます。	③
13	40万人以上の署名で存続した「北九州ソレイユホール」が、十分な説明なく休館し、その後の調査・検討状況も公表されないのは不誠実。市民の寄付を含む多額の費用で設置されたパイプオルガンは長期間放置され劣化が懸念される。2000人以上規模のホールがなくなることは市にとって大きな損失となるため、存続に向けた前向きな検討をお願いしたい。	「北九州ソレイユホール」については存続・再開を目指し、改修範囲等の精査を進めるとともに、今後の施設運営のあり方について、ホール運営等の知見を有する複数の事業者と協議検討を重ねているところです。方向性が定まりましたら、適切なタイミングで公表したいと考えています。	③
14	堀越キャンプ場は民営化後、団体利用料金が高騰したことで、ボランティア団体が利用できなくなり、市外施設へ流出している。また、市営時代よりも利用者が減り閑散としている現状は、利用者目線で「失敗」である。今後民営化が予定されている「玄海青年の家」は、先行事例のようにボランティア団体等の活動を阻害しないよう、引き続きリーズナブルな利用料金の設定を維持すべきである。	青少年施設につきましては、今後も、市民のニーズを的確に把握し、利用者目線による、より快適な施設の整備・運営を行っていきます。	③

「北九州市アセット変革方針（素案）」に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
① 既に掲載済み
② 追加・修正あり
③ 追加・修正なし

No	意見の概要	市の考え方	反映結果
その他の意見			
15	折尾総合整備事業により人口急増が見込まれる折尾駅南地区において、公共施設の配置を駅周辺に再編することは、居住者や周辺住民の利便性を高めるうえで喫緊の課題である。当該方針のパイロット事業として、折尾駅前のタウンマネジメント「オリオXcite」が適用されることを希望する。	本方針に基づき、公共施設のあり方を検討する際には、関係する計画等との整合を図っていきます。	③
16	「アセット変革方針」・「新ビジョン」・「北九州2043」を別々の政策として扱うのではなく、人口減少下で市全体の都市構造をどう再編するのか総合的に考えるべき。	「北九州2043」は、「北九州市・新ビジョン」に掲げる目指す都市像を実現するため、次世代のまちづくりと民間投資の呼び込みに向けた戦略です。本方針も、この新ビジョンに基づき策定しています。 小倉・黒崎エリアについても、「アセット変革方針」の考え方や、「北九州2043」で目指すまちの将来像、そして、想定される具体的な民間投資の内容と可能性等を総合的に勘案しながら、検討することが必要と考えています。 なお、現在発表している「北九州2043」は、あくまでたたき台であり、引き続き、市民の皆様とともに議論を重ねながら、時代の変化に応じて進化させていきます。	③
17	小倉・黒崎の両拠点への集中投資についても、需要の裏付けを伴った優先順位付けを行っていただきたい。		
18	市長・市役所・市議会・経済界・市民が一緒になって本気で議論し、より具体的で実現可能性のある「北九州市全体のグランドデザイン」を示していただきたい。	北九州市が目指す将来の都市像や、その実現に向けた重点戦略である「北九州市・新ビジョン」を、有識者・経済界・市民の意見も伺いながら定めています。ご意見については関係部局とも共有し、今後の参考とさせていただきます。	③
19	福岡市と同じ都市像を目指して競争するのではなく、製造・環境・物流といった北九州市の強みをさらに伸ばし、「福岡市と機能分担する北九州市」を目指すべき。		
20	北九州市の可住面積あたりの公共施設数は郵便局やコンビニを上回っている。0.47㎢に1拠点という施設（学校、市民センター、庁舎など）を、次世代物流拠点として活用するため、ドローン等の新技術で利便性を高めながら、日常の配送網を災害時にも役立てる「フェーズフリー」な街づくりを推進できないか。	ご意見については関係部局とも共有し、今後の参考とさせていただきます。	③